

京都における底冷えの気候学的調査

1190214 北井 空

Climatological study on 'Sokobie' in Kyoto

Kitai Sora

京都は「底冷え」という足先から体の芯まで冷え込みがすると言われるがその実体は不明である。本研究はこの京都の「底冷え」の実体を解明するため京都の冷えについて気象庁アメダスの特別値を使って気候学的な観点から調べたものである。京都の1990年から2018年までの1時間値に対して1年365日24時間毎の平均値を作り、さらに、日方向に4週間カットオフのローパスフィルターをかけて季節的に緩く進行する日変化を取り出した。そして最も寒い2月上旬の日変化を解析し、京田辺、園部、福知山、舞鶴、大阪、奈良、高知、名古屋との比較を行った。日中で最も気温が高くなる14時と温度が最も低くなる7時の間の気温差（日較差）、及び、夕方から夜間を代表する時間としての20時の気温を取り出すと、それぞれ5.9℃、4.5℃であった。他の地点での値は平均するとそれぞれ5.3℃、3.2℃であった。また気温が下がり始めてから最低気温になるまでの風速の変化は京都市では約0.6m/sから約0.4m/sであり、他の地点は約0.8m/sから約0.2m/sであった。以上の結果より、京都は他の解析地点に比べて日較差が大きい、もしくは、20時の気温が低いということは解析されず、さらに、体感温度に効いてくる風速もほかの地点と同程度であった。以上から、京都の底冷えは気候学的には認められないと言える。